

景観シミュレーション自己評価書

シミュレーションの距離帯		評価基準（考え方）	評価対象	基準のチェック	評価基準に対するコメント
遠景	<p>●背景との関係が読み取れる距離 ↓ 位置・規模を評価</p> <p>（目安） 1)1,000m程度 2)最大寸法 20 倍 （例）高さ 50mの場合 距離 1,000m 程度</p>	<p>●大景観と調和しているか（地域の景観の特徴との関係）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成基準や広域景観形成基準がある場合、景観形成の目標に適合しているか。 ・地域の景観の優れた特徴を乱していないか。 ・親しまれている眺望を妨げているか。 	① 位置	○	城崎温泉街の中心付近に位置した場所である。街並みの連続性を保つファサードとしている。
			② 規模	○	地上 4 階として城崎温泉での高さ制限 18mを超えない計画としている。 また、川筋通りに面した部分は 3 階として街並みの連続性に配慮を行う。
			③ 効行い	○	スカイラインは街並みの連続性を維持しつつ視線の抜けを設けることで南面の山を含めた修景として通りから意識できる計画としている。
中景	<p>●建物の周辺の状況がわかる距離 ↓ 主要部位を評価</p> <p>（目安） 100～500m程度</p>	<p>●中景観と調和しているか（周辺景観とのバランス）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の優れた景観特性を乱していないか。 ・過剰に目立っていたり、雑然としていたり、周辺に景観阻害感を生じていないか。 	① 基調色	○	兵庫県、豊岡市の両者に適合する色を基調として街並みの中に溶け込む色彩である。
			② おおまかな形状	○	街並みの連続性を意識しつつ、敷地内にゆとりのある外構空間を確保して圧迫感を軽減する。（敷地内に緑地及び空地を多く設けて建蔽率を抑えている。）また、川筋通りに面した部分は 3 階として街並みの連続性への配慮、圧迫感についても軽減できるよう配慮。
			③ 主要な付属物 （屋上設備 屋上階段 ベランダ等）	○	付属物は目立たないよう目隠しや配置を考慮した計画としている。また、隣接建物が近い客室には客室側よりの見え方に配慮して目隠し壁を設置。（隣接建物へのプライバシーの配慮も含めています。）
			④ 特殊な材料 （金属やミラなど）	○	光沢感のあるような特殊な材料の使用は行わない。
近景	<p>●隣接する建物との関係や通りの雰囲気がわかる距離 ↓ ディテールを評価</p> <p>（目安 50m程度）</p>	<p>●小景観と調和しているか（通りの雰囲気と建物のデザインとの関係）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通りの雰囲気を悪い方向に乱していないか。 ・商店街や住宅地といった通りの性格や将来計画に照らし合わせて適当なデザインか。 ・建物の立つ場所の特性（交差点に面するなど）に配慮しているか。 	① 壁面意匠 （ファサード意匠 側面の仕上げ 壁面設備）	○	城崎温泉の街並みと調和のとれたファサード、和風建築物としている。
			③ 看板類	○	著しく景観を阻害するような看板類の設置は行わない。
			④ アクセントカラー	○	基準内の範囲でアクセントカラーの使用はあるが、黒（N3.5）を使用し周辺と調和した色彩としている
			⑤ 低層部の雰囲気	○	川沿いは 4 階部分をセットバックさせることで 3 階建てとして街並み雰囲気と連続性を踏襲した。日本瓦の屋根、庇でデザインしながら単調とらないようにした。

